

# 少連協ニュース

発行所 / 足立区少年団体連合協議会

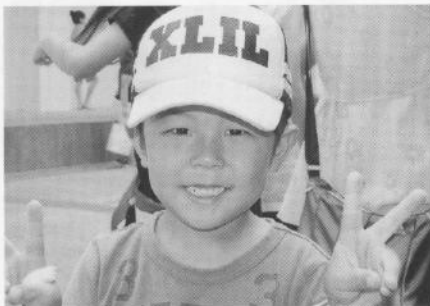
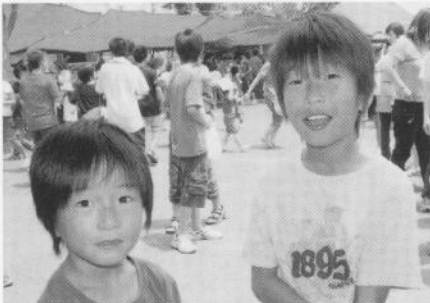
〒 123-0842 東京都足立区栗原 1-3-1 ギャラクシティ内  
足立区青少年センター 青少年事業係  
TEL 03-5242-8169 <http://www.a-shorenkyo.jp>

発行人 野辺 陽子

編集 調査広報部

石井 小野田 鈴木 高澤

高野 高橋 田中 堀内 山本



## 笑顔いっぱいの 子どもたち



### 地域に生きる といふこと

足立区  
少年団体連合協議会会長 野辺 陽子

足立区の人口は、年々増加を続け6年後にはピークを迎えるそう。平成26年には、4人に1人が65歳以上という超高齢社会に突入するという。

今の若者の考え方の傾向は、年老いた親を何があっても養うというのあまりなく、地域との深い関係は望まないのだ

という。しかし、高齢になったら助け合う関係は欲しいと願っているらしい。若くて元気な時は、血縁も地縁もその繁りを拒む一方、

年をとり淋しくなってきたらぜひ助け合う関係をと望むのだそう。

それはあまりにも虫のいい話で、地域とのかかわりは一朝一夕には

でき上がるものではないと思う。地域に生きると自覚した時から、

地域とのつながりは始まるのではないだろうか。このことは、高齢

になった時ばかりでなく、大地震などの災害時にどんなに大切である

かはすでに承知しているはずだ。人は一人では生きられない。小さ

いころから、助け合いや思いやりの精神、がまんする気持を地域社

会の中でゆるやかに育んでいって

もらえたらと思うのだ。

# 平成二十一年度 少連協総会開催



来賓の方々のご出席も多数ありました

六月六日(土)午後三時三〇分、足立区役所十二階会議室に於いて平成二十一年度少連協総会が開催されました。野辺会長の挨拶の後、十一項目の議案が鈴木春男議長のもと滞りなく審議・承認されました。今年度は、ご来賓の方々にも多数ご出席いただき盛会な総会となりました。本年度の役員改選で三人の役員が交代しました。

会長 野辺陽子  
副会長 山崎金壽・岩澤明美  
山本輝夫・加藤俊次  
事務局長 山崎金壽



新任常任理事紹介

会計 日高佐和子・伊藤公司  
書記 大林英夫・野口邦明  
総務部長 元井一壽  
調広部長 小野田みよ子  
事業研修部長 鈴木春男  
育成部長 大庫悦子  
会計監事 中山 保・小山久雄

また、常任理事は、六名の新旧交代がありました。退任された役員及び常任理事の皆さんご苦勞様でした。皆様の功績をステップに今年度新しいメンバーのもと少連協はさらに、パワーアップしていくことでしょう。

## 退任常任理事

- 第二地少協 桑原 次郎
- 第六地少協 桐生 嘉一
- 第十地少協 山崎 金壽
- 栗島地少協 芝田 宏子
- 花保地少協 大山 光子
- 江北地少協 佐々木順二

## 新任常任理事

- 第二地少協 高橋 雅代
- 第六地少協 高橋キク子
- 第十地少協 内村 守
- 栗島地少協 松田 一穂
- 保塚地少協 辻村 宣明
- 江北地少協 清水 康弘

今年度「がんばる地少協」認定団体には、助成金贈呈もありました。各地少協の子ども達のためにさらにながらばってください。

引続き五時から懇親会が行われました。区歌「わがまち足立」を斉唱後、野辺会長の「アイデアのあるうちは続投し、四年前の公約の初心に戻り、頑張りたい」という強い決意の挨拶がありました。

また齊藤幸枝教育長からは、野辺会長の長期政権で明るく、楽しい少連協活動に期待が寄せられました。休眠状態の地少協の目覚め、現状子ども会の活性化など、課題はありますが、来賓各位からも少



大いに盛り上がった懇親会



懇親会で齊藤幸枝教育長のごあいさつ

連協を各方面から支えていただけるといふ、心強いお言葉をいただき、会は和やかに進行していきま

途中、総務部主催のアトラクションでは、昭和の歌で大いに盛り上がり、少連協三十一団体会員が親睦を深めました。

夜の帳が降りる頃、野口書記が、「足立区庁舎十四階から見える夜景の美しさを子ども達のために未永く残すよう、百二十八名参加者全員が、がんばって活動して行こう」という言葉で会は締めくくられました。

### 退任理事あいさつ 少連協と私 田中 敏明

平成二十年度で少連協役員を退任しました。少連協には十八年間関わりました。充実した活動が出来たのは特にこの四年間でした。現在の野辺会長から副会長に推薦されて活動をしてきました。少連協はその活動が広範囲に亘り、そこで活動する人も大勢になります。そんな中で会長は少連協の活動を活発にするために、常に自分に課題を科し、それを実践してきました。単位地少協の会長として私は、そこまで真剣に取り組んではいませんでしたが、少連協活動の終りにあたって目を醒まさせていただきます。

そして、大勢の人々が活動している少連協は、自分自身の人間性向上に最適な場所だと確信しました。これからもたくさんの人達が少連協活動に携わってくださることを切望して、退任のあいさつといたします。

### 新任理事あいさつ 保塚地少協発足に向けて 辻村 宣明

この数年間、子ども会の休会、予算の削減等、子ども会を取り巻く環境変化、さらに東島根地少協の休会といろいろなことがあります。「学校では学べないことを学べる場所として、大人と触れ合える場所がなくなるなんてありえない」という思いでした。

花保地少協でも理解が薄れ、活動を続けていくことに限界を感じました。花保地少協の大山会長を中心に、一年以上にわたり「井戸端会議」を開いて多くの方と話し合いを持ちました。「地少協をなくしてはいけない」との思いで、保塚地区の子ども会を取り纏めて、このたび保塚地区少年団体協議会の発足に結びつきました。二つの地少協が一緒になること

は難しいことありますが、地域の大人として関わり、子ども達を見守らなくてはならないと強く思う仲間が集まりました。

### 育成会入門講座

新田地少協 大庫 悦子

五月十日、新田小学校において、育成会入門講座を開講しました。例年通り、江南地少協と合同で開催し、今年は新田地少協の担当でした。毎年子ども数が減り、子ども会が潰れて行きます。どこの地少協でも同じ悩みを抱えて、日々活動しています。

講師は江南中学校の理科の教諭で、新田地少協の坂本敬幸副会長、舎人地少協の小野田みよ子会長の



地域で学び、それを活かした笑顔の溢れる子ども達がどんどん育っていきけるよう、私たちは活動していきたいと思えます。

二人をお願いいたしました。今年の参加者はベテランの育成会会長さんから、これから入会を考えているお母様達と、多種多様で、かなり温度差のあるメンバーでした。

講師の先生からは育成会の苦労話よりも、子ども会に携わる楽しさをたくさん話してもらい、和やかな雰囲気ですべて進められました。

同時に開催したジュニアリーダー研修会も無事終了しました。子ども達のこんなに明るい笑顔を ご覧ください。





# 子どもも会育成者セミナー

## 育てよう子ども会

### 大人も楽しめる活動にするために

七月五日(日) 足立区役所庁舎ホールにおいて「第十九回子ども会育成者セミナー」が開催されました。

メインテーマは「育てよう子ども会」

サブテーマは「大人も楽しめる活動にするために」

司会の大林英夫少連協書記のあいさつの後、事業研修部鈴木春男部長の開会の言葉に続き、主催者である少連協野辺陽子会長のあいさつ、来賓の足立区青少年センター五十嵐所長のあいさつをいただきセミナーが開始されました。

講師は長年子ども会育成事業に関わり、各地域の育成者セミナーの講師を数多く経験されているペテランの足立区教育委員会青少年センター村上長彦社会教育主事です。

足立の子ども会の歴史やその目的、存在意義の大切さをプロジェクトを使いわかりやすく説明さ



村上長彦社会教育主事による講演

れました。また、現状の子ども会が抱えている問題点、役員のなり手がいない、町会・自治会等の協力が得られない、資金不足、子ども会に入らない人が多い、等の問題提起もありました。

扇地少協の地域ジュニアクラブ「オーアンドスリー」の育成に力をいれている串田さんの育成者子どもとのかかわり方のお話。また、ジュニアリーダー研修会にた

くさんの児童を集めて、活発に活動を行っている舎人地少協の小野田さんの育成者同士のチームワーク作りに、いろいろと工夫され問題を克服されているケースなどが披露されました。

休憩の後、グループ討議は参加者一四四名で、十二のテーブルに分かれて行われました。

各自自己紹介の後、自分たちの抱えている子ども会の問題点、また解決した地域からはそのアドバイス等が語られ、有意義なグループ討議が行われました。

資金面では廃品回収作業を子ども、父親達と一緒にを行い、その後反省会を行い、父親と子ども会のかかわりの理解を深め親睦を図っているケース。子ども会の勧誘は幼稚園の卒園時から行い、成功しているケース。役員は一年任期で、個人の負担を軽減しているケース。役員になったら必ず出なければという義務感をなくし、出られる時出れば良いという雰囲気作り。地区対や開かれた学校づくり協議会等にかかわり、体育指導委員、青少年委員、PTAとの連携を常に図ること。町会・自治会の青少年部長や町会役員との連携を常に図



活発な意見がかわされたグループ討議

ること。大切なことは各事業や行事を通じ、地域の人達が共同作業を行うことにより、大人同士が顔見知りとなり、理解し合う姿を子どもに見せること。ここへ来るまでは、子ども会のこと右も左もわからず不安だったけれど、長年活動を行っている人の話が聞けて自信がもてた、など活発な意見がかわされました。

最後に山崎金壽副会長の閉会の言葉でセミナーは終了いたしました。閉会後は参加者全員で椅子、テーブルを一齐に片付けていただき、あつという間に会場片付け作業が完了しました。

事業研修部の皆さんには、朝早くからの会場準備、大変お疲れさまでした。また講師の村上社会教育主事には長時間にわたるご講演、大変ご苦労さまでした。これからも青少年育成にご指導をお願いいたします。

## 育成者セミナー アンケート結果

### ○性別

女性69名、男性33名

### ○年代

10代・20代(0)、30代(22)、40代(47)、50代(20)、60代(8)、70代(2)

### ○参加回数

初めて(67)、1回(1)、2回(9)、3回(8)、4回(4)、5回(2)、6回(1)、7回(1)

### ○開催時期について

適当(68)、早い(3)、遅い(3)、どちらともいえない(20)

○このセミナーに参加していかがでしたか

とても良かった(32)、良い(45)、あまり参考にならなかった(4)、どちらともいえない(2)  
○所属する地域では役員などをさ

れていますか

している(79)、内訳として、町会・自治会の婦人部・育成部、PTA、子ども会、地少協。

していない(10)

### ☆感想文の抜粋

他の子ども会の話もいろいろ聞くことができてとても良かったと思います。特に会費の話等、他の人にも声をかけてみようと思っています。(40代女性)

子ども同士の集団活動の中で、子どもの役割をきちんと決めて、大人の役割も決めていくようにしたいですね。大人も子どもも楽しめる子ども会を作っていきたいので、各子ども会でアンケートを取ってもらい、子どもの意見、大人の意見など聞いてみるのもいいかなと感じました。(40代女性)

自分たちの子ども会だけでは、発想しなかった他の子ども会の意見や発表を聞くことができ、たいへん参考になりました。

育成者として、私の意識も高まり、これからの子ども会の参加も楽しみながら取り組んでいこうと思います。(40代女性)

たくさん子ども会があつて、それぞれの問題がある。役員のな

り手がない、子どもの習いごと

などで行事に参加できない等、同じ悩みがあつて、自分のところだけではないんだなあと知り、少し楽になりました。良いことは参考にしたいと思いました。(30代女性)

初めての参加なので、何が何だかわからず聞いていました。でも子ども会に良い話を伝えられそうな気がします。(50代女性)

子ども会の班長になっていますが、参加できる行事も限られており、実際運営などにもたずさわっていないので、特に悩みをかかえてもいませんでした。ただ子ども会というものがどんなものか知りたくて参加しました。

役員さんの悩みや、抱えている問題などを聞くと、子ども会の実態が見えてきたので、今までは違った関わりができそうな気がしてきました。(30代女性)

学校選択制は地域の子どもの実態が不明確になり、地域との関わりが薄くなっている。(40代男性)

大きな活動はできなくても、ちよつとしたことで子どもが参加できるのではないかとというアイデアをいただき、実行してみます。

(40代女性)

今回話し合った内容を自分の子ども会にフィードバックしますが、年一回のセミナーだけで終わらせず、継続的にできるものにはならないでしょうか。(40代男性)

子ども会と自治会・町会との関係がうまくいっておらず、結果的に子ども会員が集まりにくくなっている子ども会が多いのにおどろきました。

少連協と地少協と自治会・町会という流れで、子どもの育成を共有していくことの必要性を強く感じました。少連協からの働きかけをお願いします。(40代女性)

四回目の参加です。扇地少協の地域ジュニアクラブ「オーアンドスリー」の子どもの自主性を尊重する話は非常に参考になりました。大人から子どもへ一方通行、与えるイベントではなく、本当の楽しさを考えるヒントになりました。(40代男性)

誌面の都合上、ほんの一部の掲載となりましたが、これからの子ども会活動に前向きな意見を述べていらつしゃいます。「継続は力」、続けていくことに意義があるのではないでしょうか。

### ジュニアリーダー研修会 わくわくあそび塾

第六地少協 高橋キク子

ジュニアリーダー研修会の参加者が年々減少している現実を目の前にして、多くの子どもが研修会に参加するように、次のようなながきを郵送しました。前年度ジュニアリーダーを修了した四・五年生に「研修会に参加して、リーダーを目指し、新しい遊びやゲームを覚えて、仲良くなったお友達と一緒にキャンプに行こう」と。

また、地域での子ども達への関わりを一步も二歩も踏み込んで行く時期に来ていると考えています。講師は子ども達にジュニアリーダーの課題である大きな声を出す

ことの意味を説明していました。危険な時や、困ったときなどに大きな声で他の人に知らせられる子になろうと、指導していました。

当地少協は本木小と寺地小の二校の会場で研修をしています。研修会の当日は各育成会の役員

さんに受付等のお手伝いをお願いしています。お母さん方には、ジュニアリーダー研修会の持つ意味を理解し、お子さんに参加するよ

うに勧めていただけたらと、期待をかけています。

### ジュニアリーダー研修会 わくわくあそび塾

第十一地少協 大林 英夫

「おはようございます!」「何かお手伝いしましょうか?」

今年のジュニアリーダー参加者は例年に比べて、少し違うぞ。役員同士顔を見合わせました。十一地少協地区の小学校は全て明るい、大きなあいさつ運動を推奨しています。その地道な取り組みが徐々に成果を現し始めたのでしょうか。

私たち十一地少協は、例年十名弱の子ども達を預かり、研修会を開催していますが、今年は十五名の参加です。特に喜んでるのは、三小学校からもれなく、参加者が集まってくれたことです。これは、偏に先生たちのご尽力の賜物と感謝しています。

「わくわくあそび塾」とサブタイトルがあります。今年の参加者は、礼儀も正しく、織田講師の指導のもと元気に走りまわります。

研修会終了後の感想を参加者に自由に書いてもらったところ、また来年も参加したい、他校の児童



と知り合えた、スーパージュニアに行きたい等々とありました。本当に今回は、前向きな感想が出されました。少人数故、行き届いた指導ができるのかなと思いましたが。この研修会を三回ご指導していただいた織田講師、弘道第一小学校の先生方、保護者の方がた、役員の皆様、お疲れさまでした。集合写真を見ると清々しい気分になります。

### 育成会入門講座

第七地少協 加賀 正裕

教育委員会青少年センター村上長彦社会教育主事より、子ども会の現状と課題について、具体例を挙げてお話を聞きました。関原小学校小暮校長先生や野口会長からも、実際の現状を聞き、楽しく理解することができました。

子ども会とは、戦後の民主的な子どもの組織であり、有志による取り組みでしたが、昭和四十年に足立区長が足立区全域に、子ども会を組織し、活発な活動になりました。その際に子ども会を地域単位でまとめる組織として、当時の中学校通学区区域単位に作られたのが、現在の地区少年団体協議会(地少協)です。

かつての子ども達は外で集団で遊んでいましたが、現代では個別に室内で遊ぶことが多くなりました。そのような子ども達が異年齢の集団で活動することで、豊かな人間関係を育むことができ、人間的な成長につながる大きな役割を子ども会が担っています。

現在行っているジュニアリーダー研修会に参加することによって、子ども達が年下の子ども達の面倒を見ることができ、子ども会活動でも自主的に準備や運営に参画できるリーダーの育成にも繋がります。平成二十四年には、ギャラクシテイもリニューアルされ、青少年センターによる「ゆめクラブ」なども計画されているそうで、楽しいお話をうかがい、とても有意義な入門講座となりました。



## ジュニアリーダー研修会 (わくわく遊び塾) 講師アンケート

アンケート回収率 46%

現在、ジュニアリーダー研修会は、区教育委員会の青少年センターから少連協が受託し各地少協が開催しています。調査広報部では、ジュニアリーダー研修会の講師にご協力をいただきアンケートを行いました。回収率46%という残念な結果でしたが、貴重なご意見も多数ありましたので、今後、研修会開催の参考となれば幸いです。

### ※青少年センターから配布されるファイル活用の有無

YES 15% NO 85%

ファイル活用内容は、出欠確認程度に使用が大半でした。なかには、「企業の歌が入っているのでテキストとしては不適」「表現に関しては、ジュニアリーダー研修会とは考えていない内容」など厳しい意見もありました。子どもを取り巻く環境が日々変化しているのと同様、子ども達も年々変わっています。十数年テキスト内容が変わっていないのは、いかがなものでしょうか？

### ※研修会のテーマは、毎年変化を持たせているか？

YES 85% 無回答 15%

ほとんどの講師の方が子ども達に合わせ、毎年テーマを考えてくださっています。子ども達を預ける側としては、ありがたいことだと思います。

### ※研修会で子ども達の達成感を感じるか？

感じる 57% たまに感じる 43%

達成感という表現が曖昧だったので、子ども達の達成感がなかなか伝わらないのは、子ども達の表情が豊かではなくなったせいでしょうか？ 子ども達が充実し、各地少協もスキルアップ研修会を実施しなくては…と思うような、そんな研修会を開催できるよう青少年センターとの相互意見交換の機会を複数回設置したらいかがでしょうか？

### ※地域スタッフのフォローは、必要ですか？

必要 57% どちらかといえば必要 43%

各地少協のスタッフの皆さんは、長年の経験で子ども達のフォローに入ってくださいというように、講師の皆さんと地域で学んでいる研修会が多いようです。

### ※研修生の人数によりモチベーションに変化は？

ある 30% かわらない 70%

地域ジュニアリーダーの育成を主としているため、参加人数は地域により差が出ている現状ですが、一桁の場合と70名近い子ども達の受講で、モチベーションがかわらないとは、さすがプロフェッショナル！ しかし変わらないと回答されてなお、講師の方の中には、少ないときは、保護者の参加があると盛り上がるという意見もあり、子ども達が参加したいと思うような呼びかけ、企画が必要なのではないでしょうか？

子ども達には、学校を通して4月中旬にジュニアリーダー研修会のお知らせが配布されます。しかし、このお手紙

年齢別回答者比率



には、何を学ぶか？ 具体的なことは表示されていません。講師のモチベーションとともに、学ぶ側の子ども達のモチベーションを上げるためにも、具体的に何が学べるか？ 記載してはいかがでしょうか？ という意見もありました。

### ※補助講師（助手）は、必要か？

必要 70% 不必要 30%

必要と回答された講師は、40人以上の多人数で必要と回答されている方もいました。この質問からは、個人的には、いらぬが次世代の講師育成のために、助手として学ぶ期間の重要性をみなさん訴えていました。

また、各地少協（会場校）等開催日が異なるため、募集の締め切りも統一していません。そのために、学校・地少協・青少年センター間の連携も完璧とはいえない状況です。たとえ数時間でも大切な子どもを預かる側として、管理をしなくては行けない課題も今年度の研修会で見受けられました。

ここ10年、子ども達を取り巻く環境の変化により地域（子ども会）で、子どもを育てていくことが難しくなってきました。遊びや生活を通して何ができるか？ また協力することが、リーダーを育てる要因と考え、それを発揮できる場所を提供することも大切なことという講師のご意見も多くあります。

自らチャンスを見出し、発揮することは、大人でも難しいことです。

子ども会に加入している子どもも、そうでない子どもも、学んだことを生き生きと発揮できる場所の提供を、学校と地域の連携をさらに密にして築きあげていかなければならないと思います。

次年度研修会開催資料として、下記に今年度講師の実施テーマを一部掲載します。

講師	テーマ
M・A	仲間づくり・コミュニケーションの在り方
K・M	遊びのなかで生きる力を！（わらべ歌より）
R・M	身近でできるリーダーシップの心構え
K・N	自己表現のいろいろ、遊びの工夫
K・B	チーム力、達成感、意識力強化
M・H	挨拶・協力・思いやり
N・S	楽しさを伝える

●わくわくあそび塾宿泊キャンプ  
事前講習会報告

今年度のわくわくあそび塾宿泊キャンプに向けて、キャンプ技術の向上と、リーダー間の交流などを図るため、去る六月二十七日(土)～二十八日(日)に、都立舎人公園で事前講習会を行いました。

八月の宿泊キャンプの実施に備え、少連協からもスタッフが参加しました。

実技としては、火おこしやテント設営の際の確認・指導を行いました。夜は、定番のカレーを作り、レクダンスの練習をして、講習で組み立てたテントで一夜を過ごしました。



宿泊キャンプ事前講習会

実際に体験してみると、火がなかなかつかず時間に追われてしまったり、物品が不足していたりと、反省点も見受けられました。これらについては次回へ活かしていきたいと思えます。充実した事前講習会となり、ご協力いただいた皆様にも感謝いたします。

●子ども会会議が開催されました

七月十八日(土)午後一時～四時、区役所十二階会議室。参加者は新田、鹿浜、舎人地域の小学生七名、中学生一名。野辺会長のあいさつの後、自己紹介ゲームから話し合いに入りました。

各子ども会では盛りだくさんの行事が催されていて、運動会、キャンプ、クリスマス会、ビーチボール大会が人気です。今年間行事の決定等の会議に子どもも出席したいとの意見も出ました。

今後、子ども会を楽しくするには、子ども会会議の継続(年一回)、子ども会は子どもが主なので、話し合いをする時は子どもの人数が多くなるようにしてほしい、責任感を持って行動する、自分の意見をきちんと伝え、他の人の話も聞く、事故等に気をつける、大

人が子どもの意見を参考にすると、等々の意見が出されました。

参加者は少なかったが、子どもとともに、子ども会活動を盛り上げていきたいと強く感じました。

●温暖化防止&地球環境フェア

エコなくらしほくから  
きみからあだチカラ

六月二十日(土)、二十一日(日)、午前十時～午後四時、区役所本庁舎において、第二回足立区温暖化防止&地球環境フェアが開催されました。

初日は、区役所エコガーデン(北館屋上)でオープニングセレモニー、二日目は庁舎ホールにて温暖化防止区民会議が開かれ、足立入谷小学校六年・和久井峻君、



温暖化防止&地球環境フェア

第九中学校二年・池崎未来さん、岡本茜さん、柴田めいさん、(株)ココスナカムラの取組み発表がありました。少連協にも協力依頼があり、第四、第十一、新田、鹿浜、栗島地少協が模擬店で会場を盛り上げ、野辺会長もカレー屋の看板娘として売り上げに貢献されました。

マイナス一六二度の体験、ウルトラマンヒーローとのゲーム大会、ハイブリッド車体験、クイズラリー等、大勢の親子連れで賑わいました。機会がありましたら屋上ガーデンにも寄ってみてはいかがでしょうか。

計報

少連協会計・第十三地少協会長伊藤公司氏が八月十六日永眠されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

一方的な原稿依頼にも関わらず、ご協力いただきありがとうございます。次号の依頼はさてどなたに? 楽しみに待っていてください。

(小野田)